明治四十三年十二月

# 岐蘇校友

明治四十三年十二月二十五日印刷
明治四十三年十二月二十七日發行
（定價三錢）
編輯兼發行人　長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地　安井正夫
印刷者　長野縣松本市本町百八拾四番地　兎澤忠雄
印刷所　仝縣仝市仝　交文社
發行所　長野縣木曾山林學校　立校友會雜誌部

## 論說

### 歳暮の所感

明治四十三年將に逝かんとす幸に吾徒をして例によりて歳暮の所感をなさしめよ

日露戰后に端を發せし事業不振の慘狀は今年に至りて漸く其面目を改めんとし輸出入貿易は申すも更なり事業界の活躍亦漸く刮目に値す

戰后事業の亂興につれて漸く呱々の聲を擧げ得たる我林業界の活動も事業不振の烈風に吹き荒らされ寂然として聲を收め忽然として其姿を滅せり

さはれ太平洋の彼岸巨人ルーズベルト氏によりて國本培養の巨鐘亂打せらるゝあり天下等しく林業の必要を說くの時我邦獨り宇內の大勢に逆行することを得んや今年に至り韓國の併合成り加ふるに未曾有の大水害あり積極消極に林業界を刺激して斯界の活動亦當に今年を劃して多事ならんとす

噫林業界の事己に言論の期をすぎて實行の期に入る切に實行の局に當るの士を要す所詮局に當るの技術者は林業の生命なり幸に邦家の爲め校友諸氏の自重を祈る

我校亦來年を以て新校舍に移らんとす吾徒不肖と雖も益々努力以て國恩の萬分の一に報せんと期す

あだかもよし十一月廿五日を以て中央西線福島に開通す校運の隆盛に資する案外大なるものあり可し由來我校の缺点とするところは交通の不便にあらずして爲めに生ずる外來の刺激の缺乏にあり所謂武陵桃源の仙境に位置して校風あだかもねむるが如く些の活氣を包含せずまことに以て浩嘆に値す今や此憂消散せんとす賀す可きかな

## 學術

### 木毛（ネルツロオーレエー）

江波多

我國に於ける林業家と木材利用者との連絡は殆んど皆無で木材利用者は山に如何なる樹木があるかを知らないと同樣に林業者も需用家が如何なる樹種材種を要求しつゝあるかを究める事が少ない唯双方舊慣を墨守して更に研究しなかつた此罪は何れに深かろうか吾輩は寧ろ之は林業者側に存すると思ふ少なくとも林業家は木材の生產者であると同時に木材の性質を研究して此種の材は何々の用途に適する或は某國に於て木材を利用して何々の工業が勃興しつゝある或は森林の廢物殘滓を利用して何々を製作するとか種々なる方面より研究して林產物の顧客を增進し森林の遺利を開發する必要がある此意味に於て佐藤林學士は先年獨墺先進國に於ける森林工藝の狀情を視察して歸朝後林業試驗場鍛冶屋澤支場（宮城縣所在）に專心我國に從來未利用なる掬其他の淵葉樹を以て家具及種々なる裝飾材料を製作し低廉に販賣し各樹種の利用法を廣く鼓吹されつゝあるのは誠に感謝すべき次第である

今茲に獨墺諸國に盛んに操業されつゝある木毛を紹介する積であるが此種の製造工場が神戸に設立されてあると云ふ事なれば或は蛇足であるかも知れない

木毛とは木材の纖維を細かく毛狀に鉋にて削りたる者の總稱で丸太材割材或は製材工場に於ける廢物の水片を原料とするので木片は一五乃至五（一センチメーター）位の長さの可成枝條の少ない者が適切である從つて針葉樹は最も宜しいが「ドロ」「ヤマナラシ」「菩堤樹柳類」も結構である勿論木片は工

○本誌目次
●歳暮所感　木毛●シエリツヒ氏森林令書抄譯●エンドレス氏林價算法●木曾の五木に就て●洋傘の柄に就て●日本漆の新用途●林野荒廢原因●山林鐵道工事現況●部落有林野の整理●主要林木種子の貯藏試驗●僕の棚卸●鶴助●文章和歌●木曾近況●寄宿舍便●雜報

作前に空氣乾燥して奇麗に粗皮其他の附着物を除去する必要がある

製品は至極簡單で直徑二分の一乃至十五分の一「ミリメーター」位の毛狀の品物であるが多方面に需用せらるゝ即乳、硝子、陶器金屬器具、藥物、藥品、香料等荷造の塡充物として又寢具用藁、厩藁、家畜の巣及繩などに供用せらるるが兎に角此乾いた稭縮したる且彈力ある水毛は益々新用途を發見せられて外科手術並に液体の濾過用として用ひらるるに至つた

木毛の製作は最近の事に屬するが各國爭ふて製造機械の改善に努めて專賣特許を得たる者少なくない維納に於ける「ゲー、トオフアム」商會の製造に係る機械の如きは精巧なる者と云はれて居る其構造は擱筆して兎に角近頃では直徑十五分の一「ミリメーター」の細き木毛を製作し得るに至つた此機械により一日に製造し得らるる木毛の量は直徑二分の一「ミリメーター」の者九百「キログラム」を製造する事ができる

出來上りたる木毛は容積が甚だ大なる爲之を壓搾して運搬貯藏其他の操作に便なる樣工夫す又期くしで火災を避ける目的も伴ふのである壓搾機械も「トオフアム」商會製造の獨特の裝置があるが之も畧ぼう此機械は一日に高さ四五〇幅五〇〇長五〇〇「ミリメーター」の玉を一〇〇個仕上げる事ができる木毛製造工場の創設に要する經費の重なる者は

| | |
|---|---|
| 木毛製造機械 | 一〇〇〇 |
| 壓搾機械 | 八〇〇〇 |
| 圓鋸機械 | 七〇〇〇 |
| 彦機 | 三〇〇〇 |
| 調帶其他 | 四五〇〇 |
| 計 | 三三〇〇 |

澳國にけ於る一九〇六年統計によれば十二個所の木毛製造工場があつて尙續々新設さるる樣子であるのみならず殊に製材工場の附帶事業として經營さるゝのが多い而して同國に於ける木毛の年產額は十五萬噸である

尙製造工場の設計、企業費、價格、收支の計算等詳細の事は「アレキサンダーフオンエングル」氏著澳國森林工藝と商業なる書物に委しい

## シユリツヒ氏森林全書(續)

小松吉次郎抄譯

第三蒸發　森林內は低溫度なると空氣は多濕なると、及び天然の靜謐なる等によりて蒸發は他の放開地より小なり「ババリヤ」及「プルシヤ」の調査によれば林內蒸發量は開放地の蒸發量の約五十分の二に止れり此れが爲め林地に下降せし雨水は殆と其大部を保持すべく放開地が吸取するものなり而して此の大量を林地は吸收するに便利なるのみならず水量は樹根が吸收するなり遂に泉源をなすを以て所謂水源涵養上必要なる要件は土地が森林に覆はるるにありとす「ドクトルエベルマイヤ」氏は五年間此点につき調査研究せし所によれば

廣開地の土地より蒸發する水量を一〇〇樹葉の腐植質なき林地の蒸發量は四七樹葉の腐植質多き林地の蒸發量は二二換言すれば林地に腐植質存せずとも普通の畑地より水分の蒸發すること少く若し林地が腐植質に富むときは更に蒸發量を減少するを知る而して此現象は即ち林地は原野よりも樹冠が假令降雨の二十三「パーセント」を遮るとも尙一層大なる水量を保持すと次に樹根は地中より水量の多量を吸收するが故に根株の附近は森林外の土地より乾燥するにも不拘常に耕耘せらるざる雜草地に林地より少量の水を滲入するに此に生長する雜草は林地より多くの水分を必要とす此の如くなれば森林は濕氣を保護するに最有効なる作用をなすものとの決論を認めざるべからず然れども此に最も注意すべきは林地の高度なり低所にありては蒸發量多くして高所にては雨量の小量は消滅すれども地中に進入する量愈多くして泉源となすに最も有効なり故に山岳地の森林は古來濕氣を保護し雨量に大關係あるものと斷定せられさ

第三節　森林の機械的効果

森林の機械的効果の主なるものは次の如し

泉源たること地之を保護すること飛砂を防止すること雪崩を防ぎ風力を和ぐること

第一泉及川　露出せる傾斜地に降りたる雨水の大部は暫時の中に附近の河川に流れ水量は急に增加す最も極めて小部分は地中に滲入して他日の泉源をなす然に鬱閉せる森林は降雨の四分の一は樹冠にて支へ四分の三は腐植質にて一時保持し又吸收する特性を有するを以て（彼の針葉樹林中に多く生長する「ヒフナム苔」は同量の五倍の水分を吸收し又「スパグナム」苔は七倍の水分を吸上ぐ）掬林の落葉も亦一時の間は多量の水分を保持す降雨の大分は漸次附近の水流に入り急激に增水する患少し此の如くなればよく經營せる森林は泉水を涵養し川流の洪水汎濫を緩和する有力なる効果を與ふものなりされど落葉は一旦水を以て飽和し尙降雨の續くときは洪水を防ぐべき森林の効果も遂に及ばざるに至ることありされば森林の洪水に對する効果は制限ありてこれ實に屢論究せられし問題にして未だ其結論に達せざれども畢竟洪水を緩和せんには大面積の森林を必要となす

第二土壤の保護　裸出せる山腹を流下する水は土壤を弛め山下に流失する力を有す故に地之を起し穴を穿ち肥沃なる土壤を一部



に堆積し泥砂にて被はるゝことを免からす又屢砂土堆積層が川中に生じて障害物となり河底の變化兩岸の浸蝕を來す最も此等の慘害の度は地質に關係し殊に表面の構造により差異あり又傾斜地が整然たる森林にて被はれんが樹根と落葉とは共に水の破壞力を減じ土砂を保持し傍ら樹冠は一時水量の一部を妨げ保持する効あり之れ等の障害物は水の運動に反對し速力と力とを減じ數多の小水流に分割する作用をなす此の如き有利なる効果は山岳地にて最も多く實見すべく佛國より澳匈國に至る「アルプス」山中に多く其現象を示せり畿て「アルプス」地方にても大面積に渉る皆伐行はれ爲に慘害を佛國に來したるに被害地は莫大なる經費を投じて此裸地の復舊を敢行したる例ありき而して山岳地が一旦荒廢するときは其恢復は實に容易の業にあらず必ず溪間には堰堤工を起し山腹には土砂扞止の工事を進め漸く稚樹の生育を見るに至るまで表土を保護するに汲々たり抑も森林が土砂扞止上最も有効なりと認めしは實に中世紀の昔にあり當時の森林保護學中には荒廢を防ぐべき法律の存在を記せるを以て知るべきなり以上述ぶる所の効果は勿論整理せる森林に最も完全なれども亦同理により雜草灌木の生長せる土地も其害を防ぎ土砂を扞止すべし又獨り山腹に於けるのみならず海濱の飛砂を防止し風力を減じ根株は砂粒を固結し落葉は朽土を作りて濕氣を保つを以て悲慘目も當てられざる不毛地も遂に耕地と化し葡萄園を形成せし適例は佛國に見ることを得

## エンドレス氏著林價算法

伊藤譯

緒言　1定義

林價算法學とは林地林木並に森林の價格を確定することを論ずる學問なり森林較利學とは森林經營の收入と支出とを秤定することを論ずる學問なり

以上両者を分離して論ずるは實質的必要にあらずして學問上の便宜の爲めなり両者は相互に補充し或は両者を合して林價算法と云ふ

2林價算法學と森林較利學との綱領

林價算法學の論ずるところ左の如し

(一)森林の一般社會經濟的基礎

(二)森林統計の基礎

(三)其數學的基礎重利計算

(四)林地林木並に森林の價格を確定する方法

(五)各種實際的場合に於ける林價算法の應用

森林較利學の論ずるところ左の如し

(一)營業の利益　(二)森林の資本の收利

(三)連年又は隔年作業の利率

(四)輪伐期　(五)法正林の較利

第一篇　林業の一般社會經濟的基礎

第一章　土地生產業の社會經濟的要素

1　汎論

凡ての生產業は技術的特性と經濟的特性とを有す技術的要件は有要貨物製產にあり經濟的要件は經濟原理の應用にあり

生產力とは產出する貨物の分量にして收利とは生產力により得るところの利益なり

生產力大なるときは常に其收利大なるにあらず或は生產力大にして收利の小なること

あり例へば茲に掬林の百四十年生のものあり

りとせよ其生產力は必ず多大なるべしされど其材價安く且つ經費大なるを以て收利は却つて小なる可し

凡ての土地生產業は土地資本勞力を以て其經濟的要素となす

土地と資本とは勞力に比して物質的なり

資本と勞力とは或生產業より他の生產業に轉用することを得されど土地は其所的に固定して一定の狹き範圍にあらざれば流用することを能はず

或貨物の產出に於て生產要素の使用は經濟的消費と考ふ可し何となれば各要素の使用は或は一定の經濟的價格を有すればなり

2　土地

土地生產業に於て土地を次の如く考ふ可し

A主として生產業の場所的支台として

B缺く可からざる肥料を保持するものにして植物の生活を支配する自然力として

以上の特性は凡ての土地の具有するところ原始的にして且つ資本勞力の代用を許さず土地は場所的に固定し其存在は人力によらず然り而して尙は且つ地中に種々の寶を含有す(例へば石炭礦物)或生產業の目的は此等寶の採掘にあり稱して原始生產業と云ふ生產に土地の參與する効力は自然力の顯現によるを以て土地は自然的要素なり此意味に於て土地は一つの資本的特性を有せず土地は一定して增す可からざる生產の獨立要素なり

## 木曾の五木に就て(其一)

三年　木村　岳泉

私は木曾の五木に就て聊か御話し申し世人一般に御紹介致したいのです抑も木曾と申す所は御存知の如く私が申す迄も無く世人の認める如く深山幽谷の所ですから多くの樹木は青々として諸山を滿し晝猶暗き森林で御座いますから自然に林業が發達しまして愛林思想者が比較的に多い從つて當地より良材を產出する事が出來るのです其の良材と云ふものは何と云ふ樹木で有るか之を研究致して見ますれば之れ即ち木曾の五木と申しまして昔より今日に至る迄世に響き知られて居ますが私が更に此の五木を擧げて一々此等の樹木に就きて大略を御話し致したい考ですから先づ五木の名を左に示し

ます

一、ヒノキ　二、サハラ　三、コヒヤマキ　四、アスヒ　五、ネヅコ

右に掲げたのが木曾の五木と云つて世に名高いです此等の外に杉、モミ、ツガ、等種々の良材を産出しますが當地より各地へ運搬致して市場に出すのは主として五木です故に此五木の樹種に就て一つ一つ其の樹の性質造林法伐期の撰定法山元價格市場價格其他此樹の特徴に就て御話し致して如何に林業が必要はた今日に於て林業の急務なるや又利益が如何に大なるかを少しく簡易に御話し致したいのです故に先づ順を追ふて檜に就て述べて見ようと

一　檜

檜の適地は木曾に於ては三千五百尺の所より四千五百尺位の所に天然に良く生長して居るのを見ますが此の外の平地では造林しても生長惡きかと云ひますれば左程にも生長劣る事は有りません今日では此の木を至る所に人工造林をなし其の結果は非常に良好なる成績で有りますから此の樹は前に述べました如く三千五百尺乃至四千五百尺位の所でないければ造林が出來ないものではないが此の樹は一般に杉よりは稍や乾燥せる土地に多く成立するので俗に杉は谷檜は峰と云ふ事が有る位だから檜は自然高處に造林するが適當だと存じます又人工造林を行ふには先づ苗圃に播種して長さ一尺三三寸位に生長致したら之れを山出苗として山地平地等に造林をなすが適當です又此の樹は一つの陰樹で殊に幼時は日光の直射に堪へませんが故に庇蔭に生じて苗木の梢端は北方面に曲る性質が有ります此の樹は鬱閉する事が甚だ克く地力を維持します苦し鬱閉度が粗で有れば地力を損しまて然るのみでなく葉枝を多く出して節を生じ樹幹よく然に落下して枝打の必要が無いですから枝ない鬱閉度を完全にしたら枝は生じても自打費用を減ぜ經濟上最も利益です此の材の効用は主に建築材船艦材橋梁皮は屋根をふき此の外種々の用材となります此の樹の作業法は主に喬林作業で行ふものです天然更新にては側方天然更新法を適當とします此れが伐期は主に八九十年位が最も適當と思ひます又山元價格は一尺〆二圓七十錢位で市場價格は一尺〆六七圓位です私しも前述せし五木に就て御話致したいですが余の樹種に對しては順を追ふて此の次の紙上に述ぶる事に致す考へですから次號を注意あり たし(終り)

## 洋傘の柄に付て

二年　吉澤生

昨年校友會の席上に於て吶辯ながら御話し致したる洋傘の柄に付て念の爲再び誌上に記せんとす

現今の世界に於て工業の著しく發達して居る事は余の喋々する必要はない。其工業たるや原料の大部分は木材を仰ぐのである。これ洋傘の柄の如きも木材もて造られたものである。

此柄の栽培地として有名なるは彼の佛國のペルサイユとモールとの間にある一地方にして栽培地の面積たるや實に廣大にして二萬ヤール(佛國面積單位)と稱せられ都會の人士は引きもきらず其栽培地を見物に行くと云ふ程の所である。

洋傘の柄の外に又同種類の洋杖等も栽培せられる　以下其栽培法を記せんとす

樹種は栗、櫨、楤、秦皮樹、花秋樹、山茱萸等である。右の樹種の幼樹を畑地に栽培し滿二ケ年後新しき幹を多くするが爲に根元より七八寸の所を鋸斷し然る後に生ずる所の幹を五六本にす。新幹に生せる芽は他日柄或は杖になす場合に瘤を生ずるの憂あれば鋭利な小刀にて剪除する

第二年目には春立本の幹に小刀もて種々なる彫刻を施すのである、此彫刻は他日剝皮せる場合に現出して美を呈するのである

第三年目になると若藏り倒して數日間日光に乾燥し蒸氣中に入れて蒸し後に出して職人の手に渡す

然る時は職人は各々剝皮して曲りを直し必要の長さに切斷し握る所は上手に曲げるのである、以上にして幹は順に柄なり枝なりの形と變ずるのである。

これをば再び傘屋に渡す、傘屋ではヴルシ及び諸色素もて塗り又ばニッケル等を卷きつけて世人の手に渡すのである

又他の方法としては藏り倒すや否や直ちに丸くし婦人用としては指輪の形を作り或は長き杖の握りに輪を作るのである

斯くの如くして漸く洋傘の柄或は杖等に仕上げるのである若しも諸君が歐米漫遊の途次此地に至らば此栽培地の視察も無益な事ではない事と信じます(終り)

## 金原氏の事業

小池　一郎

明治四十三年五月十八日靜岡縣濱名郡和田村金原明善氏の林業事務所を全郡新開村に訪ひ金原疎水財團寄附行爲なるものゝ設立理由を聞く今左に之を紹介すべし

本財團法人設立の原因は遠く四十年前に胚胎せるものにして氏は世々天龍川沿岸に住し沿岸住民の慘酷なる水害に罹り殆ど其主を聊んせざるの狀は年少より之を觀聞し之が救濟の念造次顚沛も忘るゝ能はず辛苦經



營の末遠に一家の資産を擧げて治水事業の基礎としたるものにして其後河身改修の工事は政府の直營工事となり最に提供せし資産は之を下附せられたるを以て更に進んで水害の根源たる荒廢山の改良即ち水療涵養の事業に着手し其結果として參百萬本の人造林を宮廷に獻納したり而て此獻植と同時に接續地の林相を改良したる實測面積千二百町歩植栽樹數約四百万本に至る、是皆公衆の災害を救濟せんとする素志に基き經營したる事業なるを以て其成果を私有して一身一家を利せん事は氏の初志に非すとなし又氏の事業を繼承したる金原巳三郎氏も亦父の志を承けて更に其成果を利用して大に公共の利益を興さんとし茲に始めて天龍川疎水事業を計畫する事となれり然れども林木の成長は一定の年限を要し確實なりと雖も亦遼遠の計とす故に其成木伐採の時期に至らざる間は未だ以て公共の事業に供呈したる事實を表明するに由なく名實の間未だ嫌焉たらざるものあり是氏の積年の精神を明らかにする所以に非ず茲に於て全然氏所有の名實を移し擧げて之を財團に寄附し以て提供の事實を明にすと是れ本財團設立の理由なりと云ふ金原氏が如何に公共心に富み其財力と心力とを傾注して吝まざるを見るべし

## 拔萃

### 日本漆の新用途

(水野紐育總領事報告)

米國にては寢臺を初め其他の器具に眞鍮の製品を用ゆること甚だ多く而して之が錆止め又は光澤維持の爲めに從來上等ワニシュコーバル、アンバー、コロディヨン(棉火藥の製造工程中にあるもの)又はクリスタサン等を以て其表面を塗抹し居れども是等は孰れも磨損し易きのみならず耐酸性を有せざる爲め部分の剝脫して錆を生ずる事あるを以て米國の當業者は豫て耐久力を有する耐酸性の塗料を得ん事を希望しつつありしが頃者我漆液が耐酸の特性を有することを聞き果して上等ワニシュの如く塗後透明にして黑色に酸化せざるものなるやを確めし爲め之を試用せんとの計畫あり之れ我か漆液製造業者の一考に價するの問題にして日本漆か能く眞鍮塗料として適當なるに於ては米國への需用は極めて多大なるべし

## 林野荒廢原因（山林局調査）

林野荒廢原因に二種あり(一)は人爲的原因にして林野利用方法の不適當なること(二)は天然的原因にして地殼を構成せる岩層の種類より來れるものなり今荒廢の實地に照し考察するに其直接原因としては天然より人爲的作用によるもの多大なるも亦當該地方の地質が甚大なる關係をするを知るに足る今其著しき事例を示せば最も林野の荒廢せる内海沿岸は概ね風化崩壞し易き花崗岩和泉砂岩等より成り岡山縣の三大川なる高梁旭吉井の各川並に德島縣吉野川流域の如き比々然らざるなきの事實に徴すれば林野の荒廢を單に其取扱の適否のみに歸すべからざるものの如し其他筑前の遠賀川、播津の淀川、遠州の天龍川、越中の神通川、冨願寺川、黑部川等何れも其水源地一帶の地質花崗岩若くは片麻岩層より成り岩層崩壞し易きのみならず傾斜極めて險峻なるもの多く信濃川利根川等に至りては其流域廣く地質一樣ならざるも前記各川に比し岩層概して强固なるものの如く從て林野の狀態亦稍々彼等に優れるものあり、奥羽地方は其部分第三紀に屬する火山岩及び其噴出物の沈積により生じたる凝灰岩なるを以て土壤概して深く僅少の過伐により直に禿山に化する如きこと少なきも河川漲溢の際其土壤を洗ひ去らるるの患あり又中央脊梁をなせる那須火山一帶の山嶽地は傾斜急峻なるを以て動もすれは地表の剝落崩壞を生じ施業上注意を要すべき個所多し要するに林野荒廢の端緒は何れも先つ人爲的作用に始まり地質及び地勢關係により愈々甚しきを加ふるものの如し

## 人造絹絲の將來

人造絹糸製造の工業界に頭角を現してより僅か十五年にして其最近世界に於ける年産額は約五千噸　約五百万キロに達し一日平均十四噸に相當するに至り之を千九百六年中の一日平均産額八噸に比すれば殆んと倍增の勢を示せり而して斯く歐米各人造絹糸會社は年々巨額の人造絹糸を製造し且つ經濟上甚だ良好の成績を收めつつあるを以て世人往々人造絹糸の將來を豫想し天然絹絲の爲め悲觀的感想を抱き人造藍の轍を踏むなきやを憂慮するものありと雖も人造絹絲は引大性に富むが如きずは强伸力乏しきが如き或は濕氣に對する抵抗力薄弱なるが如き或は細織なる絲縷を生産するに困難なるが如き各種の欠点を有するを以て其需要範圍は自ら限定せられ天然絹糸の領域に向つて深く侵蝕するを許さざるの事情あり昨千九百九年に於ける同業の不況は以て其一端を窺ふに足るべし且つ人造絹絲の天然絹糸に優れるは價格の低廉なる一点に在るを以て將來蠶絲改良發達の結果其生産費を今日より輕減する事を得んか市場より人造絹絲を驅逐する實に容易の業なりと謂ふべし尙人造絹絲は綿布及び毛布との間に一階段を築きたるを以て從來の綿毛布使用者は一

と先づ人造絹糸の使用者となり次いで人生の向上に驅られ絹布使用者となるべき機會を興ふべきに依り一面人造絹糸は天然絹糸の競爭者たると同時に亦之が販路の開拓者なりと稱するを得べきか蓋し最近六ケ年間に於ける世界生絲產額に徵するに人造絹絲が年額五百萬キロ内外の原料を織物界に供給するに至りしにも不拘天然絹絲は之が爲めに領土を蠶蝕せられたる如き觀なきのみならず却て益々其產額を增加するの傾向を示せり是れ吾蠶絲業者をして意を强ふするに足るものと謂ふべし乍併科學上の發明進歩は常に人の意表に出るが故に人造絹絲が其品質の改良に於て著るしき進歩を遂げ且つ生產費を一層低減する事を得んか吾蠶絲領土の一郡の侵害するの懼なしとせず是を以て本邦の如き蠶絲供給國にありては將來本業に關して周到の注意を怠るべからざるものとす

## 山林鐵道工事現況

（東京日日新聞抄）

農商務省にては伐採木材輸送の爲め青森今泉間約二十五哩に山林鐵道の敷設中なりしが此程全部竣成列車の運轉を開始したり又高知縣下魚梁より馬道を經て田野に至る約三十哩にも山林鐵道を敷設すべく既に設計調査を終りたれば近く起工の事となるべく尙ほ高野山より九度山に至る間にも之れが建設をなすべく調査中なりと

## 部落有林野の整理

（讀賣新聞所載概要）

農學博士　横井時敬

部落有林野が部落の所有故に利用其宜敷を得ない、宜しく町村の所有に引直すべしといふのが農商務當局者の主眼とする所である、內務の當局者は部落有財產の存在を以て町村の自治に不都合であるとの意見であるに相違あるまい、部落に財產の所有あるの間は町村自治の困難なるべき事は余も亦之を諒とする、併し乍ら自治に對し尨大なる財產を擧げて其所有とするも果して自治上に大効果を望み得るであろうか、甚だ疑問である、部落に相當なる財產を有する原因即ち部落が眞の自治体で今日の合併町村は數個自治体の連合と見做さるゝのが自治の擧らざる原因ではあるまいか、然らば眞に自治に効果を收めむには今日の町村を以て行政上の一區劃となし部落を以て獨立の一自治体となすが一好策であると余は信ずる、此意味にて部落有財產を町村有とする如きは決して其道を得たる政策でない、若し部落有林野を町村に移し之が利用を增加せしめんと望むは遷潤の極である、現に財產處理は部落が町村に勝つて居るやうである、若し落部有林野が幾多事情の異なる部落の集合する町村有林野となりたる結果、果して適當に處理せられたりとするも是が農村の幸福を增進する所以であろうか。

經埋宜きを得生產倍加し、町村費輕減され得る等により部落有當時の無料生產物使用の特權と相償はむ事は物品經濟を全く脫却せざる農業家に取り當を得た事でない

經營宜しきを得たる場合尙此の如し、況んや町村となるとも遽に之が經營の改善せられむ事は思ひもよらず。

落部有なる間は一つの誘惑物の効をなして村民轉亡するを防ぐ効がある、此權利を放棄せしむるには極めて有力なる理由を要する、今迄論者のいふ所では甚だ不充分だ。

部落の住民は少數故其所有財產の處理を趣味あるべく行ふ事が出來る。

農村の荒廢は農民の轉亡に原き、農民の轉亡の原因中都會の風が田舍にまで吹き荒むが如き一大原因である、都會に住する政事家學者の徒は田舍の實狀に明かならず其理想を理想として田舍に遂行せむと試る、然るに古風の繫留所、國粹の養生所なる田舍には些少なりと局外者に信せらるゝ所の變動も其影響絕大にして遂に農民の轉亡を誘致するが如き事往々あり、町村合併の如き彼れ政事家、學者の一遍の理想を貫徹せむとするので是れ亦都會の風の吹き荒むのである、嗚呼憐なる吾國の農村亦た遂に荒廢の歎あるを免れざるであろうか

部落有林野の整理なる政策が今や當局者の案件となつたるに就て余は如何にも杞憂に堪へぬのである（終）

## 主要林木種子の貯藏試驗

（山林公報轉載）

本法は官て林學博士白澤保美氏の實驗にかゝるものにして其大要を述ぶれば左の如し

凡り林木は其營養の關係上毎年結實するものは甚稀にして多くは隔年なるを常とす而して其期日間の長短及量の多少は固より樹種によりて異るものなれ共其當年の氣象の影響殊に開花及結實期に於ける寒暑旱濕又は風の强弱等は與りて大いに力あるものとす

今本邦產林木中最多く造林せらるゝ杉扁柏赤松黑松落葉松樟等に就き是を見るに赤松黑松を除くの外其他の樹種は殆んど隔年に結實し杉扁柏樟等は通例隔一年毎に落葉松は四年乃至七年目に多量の種子を著け其他の歲にありては皆無若しくは極めて發芽率の少き種子を生するに過ぎざるものとす又蘊て其種子の發芽力を檢するに赤松黑松の種子は能く再三年を保持するも杉扁柏樟



等の如きは僅に一年を保持すること能はずして其翌年の夏季を經過する時は殆んど全く其發芽力を失ふものなり

結實の年度彼の如く又其發芽力保存期此の如しとせば凶作年度に際する時は種子價格の騰貴は勿論又强て世間の需要を充さんが爲め種子の良否を顧みず不正種子と雖も市場に現はるゝは免るべからざるの勢なり毎年種苗の供給を底廉且確實ならしむる事は林業經營上最も緊要なる事にして之によりて連年保續的の作業を安全に經營する事を得るものなり然り而して杉扁柏等は其母樹が本邦各地到る所に存し一地方に於ける種子の不足は直に他地方の產を以て之を補充し得べく又挿木伏條等によりても多少の苗木を得ること不可能にあらずと雖落葉松の如きにありては其結實は數年間に唯一回のみにして且其の母樹は現今僅に一地方にのみ偏在するを以て若し凶作に際せば全國を擧げて殆んど一の種子をも得る能はざるのみならず或は挿木伏條の如き方法によりて苗木を補給するの道なきを以て假令造林を希望するものあるも手を空ふして從に次の豐作年度を待つの外なし從て豫定案の不實行となり或は不正種子業者の乘ずる所となりて遂には尠なからざる損失を招くに至る是に於て種子の貯藏は此場合に處する臨時の處置として最も必要にして本試驗の目的は即ち此方法の調査にありとす

### 試驗の方法

但し本試驗は明治三十九年三月より繼續施行せるものにして供試種子は卅八年度產のものなり

本試驗の供試種子は杉黑松落葉松樟の四種として之が貯藏法は左の如し

（甲）室內貯藏

（一）空氣乾種子を綿布製囊に入し空氣の流通よき室內に垂下せり

（乙）穴藏內貯藏

（二）空氣乾種子

（三）火力乾種子

（四）同上種子を小瓶中に密封して其中の空氣を排除せり

（甲）は普通の貯藏法によれるものにして

（乙）穴藏內貯藏と稱する其穴藏は本所構內丘陵の中腹を橫より穿ちたる土窟にして奧行二十四尺地面よりの深さ十五尺窟內天井の高六尺五寸ありて窟內常に暗く又其內部の溫度は一年を通じて殆んど變化なく三十九年及四十年再年度の觀測による時は其平均溫度は攝氏十五度半にして四季を通じて最高最低溫の差は僅に一度なり又窟內の濕氣は常に飽和し時には種子貯藏硝子瓶面に露を結べることありき而して其後土窟を改築して奧行二十九尺深さ十六尺天井の高さ九尺とし四周煉瓦を以て壘み通氣口を設けたり之より後其窟內の濕氣は前者に等しく常に變化はなかりしも溫度は季節によりて其の變化の度稍高きを見たりと云ふ

（三）火力乾燥種子は氣乾種子（普通種子）を更に攝氏四十度の空氣乾燥器中にて一時間乾燥せるものなり

（四）は小瓶中に小量の種子を入れ之を木栓を以て密封し次に木栓を穿ちて細き稍子管を挿入し排氣器によりて之を通じて其內部の空氣を排除して後其通口を密封したるものにして又毎回の試料には就中排氣の確實なるもののみを使用せり而して其結果に據る時は

（一）杉種子　室內に於ける普通の貯藏方法による者は採集の翌年盛夏の候を經て九月に至れば俄に其發芽率の減少を來し其十二月には殆んど全く發芽力消失せりと雖穴藏貯藏のものにありては越えて翌春三月に至るも猶發芽力を保存し當時充分に播種用に供し得べく殊に空氣乾種子は六十六「パーセント」の高率を示し之が貯藏の目的を達する事を得たり

（二）落葉松種子　室內貯藏のものは其發芽力の保存全く杉種子と等しく三十九年の盛夏を經過中殆んど其發芽力を失ひたるも穴藏貯藏のものは各種共に能く發芽力を保存し四十年度播種用に供するも遺憾なく四十一年三月に至るも猶六拾「パーセント」に垂れんとする高率を有し四年目に入りて漸く衰へたり然れ共火力乾燥種子は之と稍趣を異にし其排氣中にあるものと　に何れも四十年六月以降急減し四十一年三月に至りては僅に一或は二「パーセント」發芽をなすに過ぎざりき

（三）黑松種子　杉落葉松等の室內貯藏種子が僅に第一年目の竪夏を經て俄然其の發芽率を減少するにも係はらず獨り此種子は初年度に於てのみならず二年三年を經四年目の九月に至りて猶十二「パーセント」を示し五年目に迨ひて之を繼續するものゝ如し室內貯藏の結果已に此の如く又穴藏貯藏のものは何れも一層よく其發芽力を保存し四年目の九月に及んで猶九十三乃至九十四「パーセント」を示し之を當初に比較するも殆んと變化なく其保存力は底止するところなきの觀あり

（四）楠種子　發芽力の減衰杉の如くして更に之よりも急なり即ち室內貯藏のものは次年の六月に至りて急減し九月には已に一粒の發芽を見ず然れ共火藏貯藏のものは火力乾燥種子を除き四十年に入りて猶播種用として堪へ得るの發芽を示し九月に入りて全く消失せり

以上の成蹟による時は通例の室內貯藏法方による時は僅に半年若しくは一年間發芽力

を保持し得べき杉落葉松種等の種子は之を穴藏貯藏によりて採集年度より二年目若は三年目の播種期迄發芽力を保持せしめ能く二年目若しくは三年目の結實に伴ふ種子の過不足を按排する事を得べく或は黒松の如きは室内貯藏に於てすら四ケ年以上發芽力を保持し得べきものは之を穴藏貯藏法によりて猶一層其年度を延長し且つ其の發芽を高率に貯藏し得べし（未完）

## 文苑

### 僕の棚卸

旨蛇

僕は前號の本誌に於て僕の棚卸しをして見たが今またこの節季に際會して煤拂の不行届の樣な氣がするから重てこゝに曾て讀みたる書物の中から僕の氣に入りたるもの二三を摘錄して其補遺に充つべし

○我好むもの―海棠尾花多き秋の野、蘆の花白き川邊杉の木立深き處天井の高き、疊の新しき、山間の月、浪荒き海邊、山上の眺、三四歳の幼兒、沈勇な人、氣前よき男、强情なる男、沈痛悲涼の趣ある音樂、莊子の文、李白の詩、旅行、繪畫碁、角力、鎮西八郎、旭將軍、文覺上人、小稲公、山中鹿之助、天野屋利兵衛、上杉謙信

○我嫌ふもの　蚊、蚤、蠅、塵、氣取る男、ゐらがる男、利口ぶる男、にやけ男、理屈好きの人、氣概なき男、恐狶をこぼす男、義理知らぬ人、たべつかゝ者、高慢なもの、

○當代の理想

大學生曰く多く參考書を讀まずともノートブックと首引して試驗の成績をよくし高等文官試驗に及第し抱へ車を置き美人を得て妻とせん

文學者曰く如何かして原稿料の直上げをなし多く金を得て金時計を買ひ流行の新衣裳を求め高樓一夜紅夢を買はむ

小學教員曰く郡視學の機嫌を取り二三圓にても月給の多き處に轉任さして貰ひ身の安樂を計らん

學者曰くうまく運動して洋行さして貰ひ歸つて大學の教授となり論文を書かすして博士となり西洋の受賣りして法螺を吹かん

商人曰く出來る丈不正をなし惡品を高く賣付けて奇利を得早く資産家の中に入り別莊を設け妾を置かん

官吏曰く上は長官のた髯の塵を拂ひて昇進を圖り下は御用商人の賄賂を取りて懐中を肥さん

新聞記者曰く風敎に害ある艶種を多くし讀者の歡心を買ひ名ある人の私行を發きて世の好奇心を惹き金をゆすり財政を豊にせん

政事家曰く國家よりも我黨が大事我黨の消長よりも一身の榮枯が大事地方の富豪をだまして金をまくり上げ鵜の鷹の目政府の失策を探し出して内閣を乘取り馬車を驅らん

○日本人の惡癖面と向つて勿体ぶり或はにこ〳〵笑ひて好意を表すれども其人去るやゝ勿ち之を惡口すかくて役所にて同僚相寄れば長官を譏り學校にて生徒相會すれば先生を嘲り下りては井戸端會議となりて隣の細君を惡口す裏店の山の神より上等社會に至るまで皆此惡癖あるを免れず畢竟するに陰口を叩くは話柄に乏しき事（一）うねみ（二）人の缺点を見て喜ぶ動物自然の劣性（三）自家の小不平を散ず（四）いづれにしても紳士の体面を保つ所以にあらず

### 鶏肋片々

竹軒

○節を洛北金閣に曳きて其三層樓に上る者は雛僧の天井を指して其楠の一枚張なるを誇說するを聞かん吾輩其眞相を確めず又其直徑の寸尺を詳にせずと雖若し雛僧の言を眞なりとせば其材の異常絶大なる驚倒に値せずんば非ざる也

○古來の信仰に依れば異常の巨木は神靈の宿れるものにして之を神靈視するを常とす高砂住吉の松は精靈人格と化して謠曲に現はれ柳の精は美人となりて淨瑠璃に歌はる其伐採の時に當りては或は神變を現じ樹梢悲鳴を發するものあり或は腥血淋漓たるものあり或は後代迄祟をなして其禍測るべからざるものあり此の如きは古傳小說に往々見る所知らず金閣楠の大材は其伐採の際如何の說話か存せしや

○大木の傳說は早く記紀風土記等に現はれたり書紀景行の巻に曰く

『天皇十八年秋七月　筑紫後の國御木に到り給へる時僵れたる樹あり長九百七十丈なり中略一老夫あり說きて曰く是樹は歷木なり未だ僵れざりし前朝日の影に當れば杵島山を隱し夕日の影に當れば阿蘇山を覆ひきと天皇乃ち宣く是樹は神木なり宜しく此國を號して御木國といふべしと』

○筑後國風土記亦此樹の事を記す之に依ば朝陽には肥前國藤津郡多良峰を蔽ひ夕陽には肥後國山鹿郡荒爪山を蔽ふといひ尙御木國を訛りて三毛と稱し今以て郡名となすとあり然らば肥後國は此木を以て郡名となすの故に御木と稱せられ又現に其郡名に名殘を留めつゝあるなり

○紀伊國は木ノ國の義なる事況く人の知る所なり書紀神代巻に素尊の三子五十猛命大屋津姫命及抓津姫命亦能く木種を分布するを以て紀伊國に渡し奉る事を記せり彼の高野槇の名あるは這般の歷史と關聯する所なきか但し未だ神話的大木あるを聞かざるを憾とす



○古事記仁德天皇の巻の傳說は尤も趣味に富めり曰く

『此御世に兎寸河の西に一高樹あり其樹の影朝日に當れば淡路島に及び夕日に當れば高安山を越えき因て其樹を切りて船に作れるに甚速し其船を名けて枯野といふ此船を以て旦夕淡路嶋の寒泉を酌み以て供御の水となす後此船破壞せしかば用て塩を燒き其殘木を取りて琴を作りしに音響遠く七里に聞えたりき』

とありて其下歌を擧げたり此歌は書紀に依れば應神天皇の御製なり曰く

『枯野を塩にやき、しが餘り、琴につくりかき彈くや、由良のとの、となかの、いくりに、ふれ立つ、なづの木の、さや〳〵』

大意に曰く塩を得んが爲枯野を燒き其殘木を以て琴を製し之を彈ずるに其音亮々由良の湊の海上に立てる荻蔎の波風に搖られて鳴るが如しとなり

船の材は檜を以て第一とす然らば此巨木の檜なりし事想像するに難からず記の文に『因て其木を伐る』とあるは聊厄介視したる嫌なきに非ずされど燒かれて尙琴となり其音亮々隣里に徹す死して芳名を千載に留るものといふべし

○古事記に載す雄略天皇長谷の百枝槻の下に豊樂せし時伊勢國の三重采女大御盞を奉る恰も百枝槻の葉落ちて御盞の中に浮べり采女之を知らず天皇逆鱗甚しく既に采女を誅せんとす采女長歌一篇を詠じて哀を乞ふ天皇色解け之を許し給へりと槻の下に豊樂するは古禮也百枝槻といへば大木なる事知るべし

○書紀持統の巻には蝦夷の男女二百十三人を飛鳥寺の西の槻の下に饗すと見え孝德巻にも大槻の下に群臣を召し集ふと見えたり蒼鬱たる大樹の下群臣の衣冠を正してひたと居並べる樣を髣髴せよ泰平の氣雍和の象自ら是好箇の畫題にあらずや

◎『和泉なる信太の森の楠の木の千枝にわかれて物をこそ思へ』之れ紀氏の女の歌也人口に膾炙す其千枝といふを以て見れば鬱蒼たる巨木なりし事疑なし

◎陸前武隈の松は歌枕として著聞す勿論大木也能因再遊せし時は既になく乃ち歌ひて曰く『武隈松はこの度あともなし千年をへてや我はきにけん』と此松を伐りしは陸奥孝義なる事歌書に見えたり孝義の殺風景が當時歌人輩の憤怒を買ひしや必せり

◎源經信太宰帥に任じ下向して筑前筥崎に宿る時恰も中秋に屬し明月皎々得難きの良夜なり但宿舍の前槻の巨木の遮蔽するを以て眺矚便ならず經信乃ち命じて之を伐り倒さしめ徹宵琵琶を彈ずといふ經信の如きは殺風景を轉じて却て風流となすもの又彼が堂々たる威風を想望すべし

◎唐崎松は天智の御宇始めて之をうゑたりと云ひ傳ふ幾度か枯れ幾度か植ゑ續ぎけん足利の末明智光秀滋賀に一松を手栽し乃ち歌うて曰く

我ならで誰かはうゑん一つ松心してふけ志賀の山風

と是れ蓋唐崎松の後繼として植ゑたるものならん但し現今のものが果して光秀手栽のものなるや否やを知らず

◎巨木愛すべし名木保存すべし而も樹壽亦數あり宜しく其枯死せざるに先ちて後圖を爲すべき也此点より見て光秀の風流は掬するに堪へたり孝義の亂暴は惡みて餘あり經信の擧の如きは經信にして始めて可なるもの後人猥りに其顰に倣ふなくんば幸也

### 人は生れながらにして富む

二年　宮澤生

人は生れながらにして事業に要する資本を有せず此の資本たるや自から棄てずんば減する事なく人も亦强て之を奪ふ事を得ず之を養ふに道を以てすれば事として成すべからざるなく直に天地の化育に參すべし即ち人は皆富める資本を以つて生れたるなり見よ强固なる筋肉あり頑丈なる骨格あり是豊豊かなる財産にあらずや、完全なる腦力あり善良なる品性あり、健全なる感性あり、加ふるに二本の腕と巧妙の作用をなす五本の指あり、是れ豊大なる富にあらずや、吾人は斯の如き武器と富とを以つて社會に立たんとす何の不足とする所ありて天を怨み人を尤めんや吾人の首途は造物主の全能を以て遺憾なく準備せられたるなりかくて社會に立たば各自の運命は自から之を開拓せざるべからず、此天賦の尊ぶべき資本あり武器あり競爭場裡に奮鬪して其の勝つと敗るゝとは其人の努力の程度如何に在るのみ

### 亡友を思ふ

一年　田中榮一

余に一人の親友ありき、去年の末つ方より病の床に苦めり風薰る春の黄昏余は彼が心を慰めんとて日頃好める山吹の花を手折りて行きて訪ぬれば……果敢なしや……あはれ友は其日長き眠につきて歸らぬ客となりにけり、余は思はずうち倒れ其夜一夜を泣き明しぬゝ如何なれば死の神は余の如き愚者を殘して彼が如き天才の子を誘ひ行きしや誠に彼は文才に富み大人も及ばぬ達筆なりしものを可惜花の蕾を吹き散らせし死の神のつれなさよ眠るが如き春の朝深山の花を尋ね涼風身に

しむ夏の川邊に釣を垂れ拭ふが如き秋の空月下に讀書し吹雪の日爐を擁して世語りに夜更かしたるも皆彼と共なりしを今や彼無し之より後を我一人何にかせん懷しき友よ恨めしき友よ

## 眞の美

一年　植松　翠峯

言ひ難い描き難い眞の美は一寸した所に現はれる者であります

夫れは先日私が中畑へ用達に行つた歸りでした丁度蠶病豫防事務所の前へ來ると十一二歳の子供を頭に七つ八つの子供が七八人集つて期節柄運動會の眞似でしよう事務所の入口の廣い道を運動場にして今しも五人程の子供がスタートに列んで號令の下るのを待つて居ました其時丁度私のちき後から來た四十格恰の商人体の男が旅の歸り路らしく大きな荷物を負ひ手には小さな風呂敷包を持て足早にサッサと私を追ひぬいて例の子供の列んで居る所を通りかけてふと立ち止まりさま夢中になつて遊んで居る子供の肩を輕くたゝきました

子供は氣が付いて一寸ふり返つて其男を見上げるや否や「オヤトー（父）が？」とばかり一聲高く今迄の遊びもどこへやら懷しい父の袖へすがりついたのです

うれかから子供は父の手から小さな風呂敷包みを受取つていろ〳〵と父の前に立つて行くのです私は知らず知らず彼等の後につひて歩いたのです

「山のノニー兄は歸ッタカ？」「ウ｜今日！」此れは其途中での二人の會話です、何と短い會話ではありませんか其れも最もです此短い會話が終ると共に彼の子供はすたゝ〳〵と走り出した父の歸りを報する爲めやがて彼の子供は石地藏のある直き近くの家へ馳せ込みさま「カッカ　母　トーん　歸ッタヨ」「其あとから彼の父はニコ〳〵笑ひながら家に入りました

私は夢からでも醒めた樣にはつとして空を見上げました美しい清い〳〵星が一つ此春慕しい姉の眸の樣にキラ〳〵輝いて居ました

「オートー」此聲は決して汚れた此世の人の聲ではありません、これゞ彼の子供の雪の樣に白い玉の樣に清い心の中に宿られて居る神が思はず奏でた神秘の聲音ではありますまいか

あゝ此子供は幾日幾度夜毋今日歸る明日やあゝ此子供は幾日幾度夜毋今日歸る明日や歸ると如何に父を俟つたでしよう

又彼の父は遠き旅路に鐘響く夜半夢は幾度我子の上に飛んだでしよう

あゝかくて今宵は再び暖かい樂しいホームを作る事が出來るのです

「オヤトー」あゝ其時彼等の眼を慈愛！慈慕にみたざれる彼等の眼を！

どんな名畫工があつても此美しい〳〵眞の美を寫し出す事は出來ないでしよう實に此れ人間の最高の思想を現した時です

高の情を現した時です

あゝ罪なき子供よ彼が父から受取つた包の中にはどんな珍しいオ土産があるでしよう

うして夫れ等を開く時見る時…彼等のホームには如何に暖かい氣が充つるでしよふ

あゝ頭是なき子供よ…慈愛となる父よ…

かくて幸あるホームに彼等は如何に暖かい夢をむすぶでしよふ

あゝ人生の眞の美…あゝ人生の至美よ…

### 木曾福嶋驛潼車の開通式を歌ふ長歌　安井　正夫

日のもとゝこゝその名も高きやてけいのうれにもまさる山河のながめゆかしきころとてきふひらくるくろかれのみちをたよりにゆくるくろかれのみちをたよりにゆくる人なむかへて戚ふこゝろ鎖しきことのさはみなりけりふみなやむ木曾のやま路もくろかれのみちひらけゆくみよりめてたき

### 歌　帖　より　福田　寛二

晩秋の野にたち居れば風吹きて河邊の蘆はゆらき初めたり

天地のなべて身にしむびさゝきにあぢさなき性の生きがひ思ふ

霜月夜月はほ〳〵かに山寺の落葉に照りて淋しさのわく

星月夜山茶花の辨ほろ〳〵と散るにも似たり我慈は

何となく驛ぜゆく馬車のどゝろきもあれにぼゆる夕の街ばな

冬は來ぬ枯れ蘆白く山白く野に咲く花は一つだになし

緣近くまばらに咲ける白菊に月は流れて露のさやけさ

夕されば曉がわらやに月いでゝ梅花は淡く閨に浮べり

緣にあり靜かに物を思ふこゝろ山茶花散りぬ音なく散りぬ

秋の夜半壁にうつれるわが影の淡きが中に悲しさのわく

梅が枝に月はかゝりて花の香の匂ひ床しき山の吾が家

### 竹　軒

○御嶽途上

零露濃々一路賒。　炊烟處々野人家。
芻蕘半是紅顏女。　行盡山巔與水涯。

○登御嶽

九々雄峰峻極天。　攀躋絶壁到山巔。
隻眸千里久心賞。　自覺雪中羽化仙。

○盆踊

撲々淳風古趣存。　峽中風月別乾坤。
一團男女五三百。　謬舞唱和明月前。

○吊義仲之墓

老檜蕭森夕照斜。　興善寺畔令人嗟。
憐看旭日將軍墓。　苔蘚深封落葉多。

○上城山望松本平

壘殘墟引客愁。　江山如畫夕陽流。
提封六萬眞堪羨。　十里金風秋色稠。



## 通信

### 木曾近況

小池　櫻洲

木曾より呈上仕候、夜毎に虫の音も絶えて木曾路の紅葉面影だに止めず淋しき冬はこゝ木曾路にも訪づれ來り候其と同時に開闢以來の出來事に逢着致候うは他事にても無之鐵路の開通にて候聊か禿筆を呵して當日の概況可申上候

○十一月廿五日中央西線木曾福嶋驛は營業を開始し同時に大祝賀式擧行せられ候抑々福嶋の名は各所に有之奥州線にも大阪西成線にも有之候へばここにては特に木曾福嶋驛と命名せし由に候

當日の式場は停車場の廣庭を宛て紅白の幔幕萬國旗球燈を以て裝飾し入口には凱旋門形の綠門を立てプラットホームにはワットの像据付られ見物人は町の人は申に及ばず近郷の老若小學校生徒など續々押かけ立錐の地も餘ざる程にて候ひき式は午後二時を以て始まり松岡町長の式辭、森本事務官の知事祝辭代讀、武藤判事、田中支廳長、郡長其他諸氏の演說祝辭あり尙本線布設に關して當時盡瘁斡旋の勞を取られたる故人大澤長一郎、安井新七兩氏に對しては松岡祝賀會長功勞表彰の感謝狀を送り又三岳村武居午之助、山口村宮下虎三、當町安井正夫松原熊五郎四氏の功勞に對しては口頭を以て謝辭を述べ斯くて三時半閉式來賓一同は小學校生徒喇叭隊、音樂隊等に導かれて宴會場なる福嶋小學校に入り申候全町は各戸竹枝を立て球燈を吊し滿艦飾の壯觀を呈し候夜に入りては數十發の煙火を打揚げワットの像を曳て町内を練り廻し又例の盆踊も催され候兎に角峽中、未曾有の盛事と可申尙書くべき事多々有之候へ共此繁忙にて擱筆

○校友會例會　十一月十九日午後一時開會例に依て會員諸氏の演說有之頗る盛況を極め申候就中小羽根君の現代刮目に價する三大壯烈服部君の出鱈目談倉澤君の南洲翁逸話等最も振ひ吉澤君のスラッキの栽培は愛嬌タップリ福田君の立体的人生は奇想天外より落ち吃々の怪辨と相和して滿場の喝采鳴りも止まず候ひき其他新家先生の白木屋創業譚今井君の梅と櫻市川右金吾君の我國の歷史と我校の歷史原田長谷部兩君の偶感等あり茶菓の饗あり て五時近く閉會致候

○森本事務官來校　十一月廿六日本縣事務官森本氏來校せられ全校の授業を參觀せられ三年級生徒に對しては特に口頭試問を行ひ尙令校生徒を講堂に集めて一時間餘の講演を致され候講演中冷水浴及深呼吸の二つは大に奬勵せられ候事とて翌朝より實行する者多數見受けられ心身の修養上誠に喜ぶべき事と存候冀くは永久に繼續して息まざらん事切望の至りに候

○運材實地見學　十一月二十八日午前五時半三年級生徒は小松敎諭に引率せられ運材實地見學の途に就き候檜の香鼻を襲ふ木曾福嶋驛に氣車の便を借りて六時出發間もなく上松に下車し直に小川材木所に向ひ候午前九時四拾分小川材木事務所に着し檜の新植地を見時尙早けれども茲にて中食を喫し羊腸たる山路を遶りて午後二時阿寺伐木所に到着し卒業生小池新吾君の出迎を受け輕便鐵道に沿ひて道々伐木跡地新植地等を見貯木所に出で棧手の運材鐵索及製板を觀午後四時野尻着一泊致候

翌廿九日午前九時野尻を出發して吾妻橋に向ふ途中大川狩を見申候此處にて卒業生岡田中鳴、倉科、原、小池等諸氏に出會吾妻橋にて一方ならぬ饗應を蒙り候夫より三留野に返り氣車に乘じ夕方歸校仕り候

○臨時試驗　十二月一日第三學年生に對して監督官廳の出題に係る臨時試驗有之候問題は戊申詔書中「忠實業に服し」より「自疆息まざるへし」までの暗書及品性修養といへる題下の作文にて二時間を費し申候

○學期試驗　十二月十三日より二十一日に渉る九日間の學期試驗時間割表は既に發表せられ吾人の大敵は眼前に殺到致し候こゝ旬日は緊褌一番大奮闘を試みねば不相成候先は匆々

## 寄宿舍より申上候

鉄丸　記者

寄宿舍は依然として例の通りに候赤黑い煙ぶつた樣な暗い長屋で便所を前にした二軒長屋が矢張り眞中で引付いて入口に電燈がぶら下り居り申候舍前の門白黑塀赤學校も變りは無之寂しげに立つて居り申候いどちらも最早た拂箱と相成り申す筈にて候一日毎に壽命が縮むわけにて候然し今日では一日もなくて叶はぬ校舍と借長屋に候へばまだまだ見捨てられ申さず候この借屋世帶（寄宿舍は借舍に候）も馴れて來れば存外氣樂な者に候始めは穢い暗いと思つた舍内も此頃は存外明るく思はれ申候圖書室は益々榮わ行き申候購買組合も大繁昌に御座候近頃は和洋菓子賣捌を始め申候其果子はきれいで旨くて安くて甚だ便利に御座候父隔日に賣り捌き相當の制限も有之候へば弊害も無之候約が出來て至極結構に候、近頃は又便所の下駄を新らしく致し候、赤レザー緒のハイカラ德田何藏心地に

より相成り申候近頃は舍生の中で妙な失敗をする者等はなくなり申候然し一寸此間の夕方K君が東舍の便所より一大奇聲を發し乍ら飛び出して廊下を駈け回り第一室へ命がけに飛び込み候時はびつくり仕候、能く譯を尋ね申候に便所に長髪白顔の化物出現せりとの事此君の罪のないのには笑ひ崩れ申候候、さりとは又たどかしたる君は確に罪人に候前號に豫報申上置き候、運動會は仲々盛大に擧行仕候其狀況は別項の通りにて舍内には準備のために混雜いたし申候一寸以前より始め申候食費の剩餘金を積む規約貯金も隨分積もり申候塵もつもつて山と相成り候へば諸君の地方へ旅行にても致しウンと御馳走致すやも知れず候何卒あてなしに御待ち下され度候、

天長節の佳辰には聖壽の無窮を祝して例年の通り寄宿舍が主催致し學校で大芋汁會を開催仕候先づ例の如く通學生が摺鉢摺古木を持參する舍生は芋を洗ふやがては生れてはじめて摺古木を手にする人仲々巧者な人等種々なる姿をして芋汁の製造に從事仕候其間風姿批評起り摺古木の自慢あり何程力を出しても摺古木の回らぬ者等有之滑稽百出實際抱腹仕候炊夫の調理舍生の献立にて潮く出來致し候へば本校舍の會場へ連んで燒鳥等を嚙り乍ら大食仕候職員各位を始め生徒皆莞爾々々し乍ら詰める事々々れ腹は大太鼓の如く相成り申候一年一度の御馳走自炊の珍味旨い事一生忘れられ申さず候私もウント食べてれ祝い申候、此日は例年の通り舍内各室へ炭火を入れる事に相成り居り候へ共本年は暖かき爲五六日後に入れ申候、本月六日には本縣下に擧行せられし第十三師團の機動演習見學の爲三年生のみ三泊旅行せし事は別項の如くに御座候見苦しい寄宿舍でも仕み馴れては善き者に候僅か三泊旅行でも寂しい樣な氣もいたし申候又十七日に初雪有之候これからは寒くて閉口に御座候、此度は此位より申上ぐる事無之候序で乍ら次に雜報申上候來る二十五日は工事中の當福島驛も名古屋方面の開通式は有之由にて大々的準備中に御座候、當日宮越驛の開通式もある由に候之れにて中央西線も通せざる所は福嶋宮越間僅二里のみ他はすべて開通致し申候文明の餘澤は木曾に迄も鐵路敷かれ黑煙を吐いて轟轟長蛇の往來する樣に相成候從是木曾之林業界は勿論産業界の舞臺は世界的と相成申候從つて生存競爭も激烈と相成り可申候都のハイカラ風は既にドシ、、侵入せられつゝ有之候殊に目に付くは少年少女の感染に有之候苦言すれは爭つてハイカラの先鋒たるを誇る風相見え申候、何しろ木曾人士は舊來の陋習を打破し眼光一轉世界的活舞臺に健闘せざるべかざる次第に候且舊來より一大改良を要するは商業家の策戰と存せられ候實業界かくの如くなると共に精神界の急務も多々可有之と信せられ候一日も早く斯界の先覺者の呼號響導と各人士の目覺しき活動振りを見たきものに候、鐵道開通は吾々若輩にも重大の關係有之候全通の一日も速かにして且盛況ならん事を祈上候、次に客月十五十六の兩日間長野師範學校庭内にて催され候本縣中等學校聯合競技運動會に參加せる本校庭球選手の中、杉本直、中澤淳四郎兩氏の組優待と相成り申候、過る五月十一日本校卒業生なる西野入德君より庭球部へ金壹圓御寄附被成下難有拜受仕候、甚だ失禮には候へども玆に厚く御芳志を奉感謝候、次に卒業生諸君より本紙へ御投稿の栞を得度特に御願申上候紙上には匿名にて宜敷候、尙來る二十六日頃本校第三學年生のみ當福島驛より乘車して小川阿寺方面へ運材視察に出掛ける事に相成り居り申候

一寸御斷り申上候此便りは前號にて申上ぐるつもりに候ひしかども編輯の都合上本號へまわり候に付其御積りにて御覽被下度候。

其後新しく申上ぐる樣な事も無之候只愈第二學期試驗に候へば靑息吐息にて勉强を始め申候、御承知之通り試驗は私共の大敵にて毎度苦しめられ申候其困難なる試驗中此二學期試驗は至難中之至難なる試驗に候へば其心配其苦痛は實に一方には無之候何れ靑白坊が續出する事と存候、私は試驗の度毎に壽命の縮む樣に感せられ候殊に難問に出會し見事失敗する時には死に度なる樣な事有之候、全く試驗は罪なものと存候然し試驗が濟むで氣が清々し喜び勇むで家路を辿る時の愉快を夢みて勉强いたし居り候、本年は滊車も有之候、先づは以上申上候

## 雜報

○卒業生諸君雜誌代領收報告

金八十錢　松澤萬吉君
金五十錢　栗野原治平君
金壹圓　藤卷壽一君
金五十錢　林省三君
金一圓　小澤順君
金五十錢　輪湖正由君
金五十錢　宮入汎省君
金五十錢　杉本純平君
金三十六錢　寺嶋俊一君